

官民データ連携のための 政府の検討状況・今後の方向性



2020年10月9日

平本 健二

政府CIO上席補佐官

政府の目指すデータ連携基盤

- データ連携をする上で、グローバル連携、標準化、データ品質、データのエコシステムを考えることが重要である。

グローバル連携

- データ連携するにしても、各種アプリを使うにしても、グローバルを意識して構築する必要がある。

標準化（ルール、データ）

- 迅速にデータを活用できるようにするため、ルールとデータを標準化していく必要がある。

データ品質

- 不正確なデータが混じると、全体効率が著しく下がる。業務や意思決定を正確にするために、正確で最新のデータを収集し維持する必要がある。

データのエコシステム

- データ提出や収集、データの管理、データの利活用が、無理なくできて、持続可能な仕組みである必要がある。

Society 5.0を支える分野間データ連携基盤

データ利用者

アプリ開発・サービス提供者

データ配信者

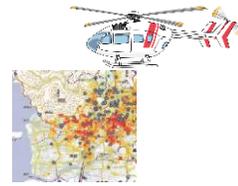
データ提供者



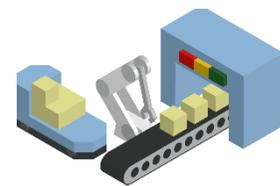
スマート農業



自動運転



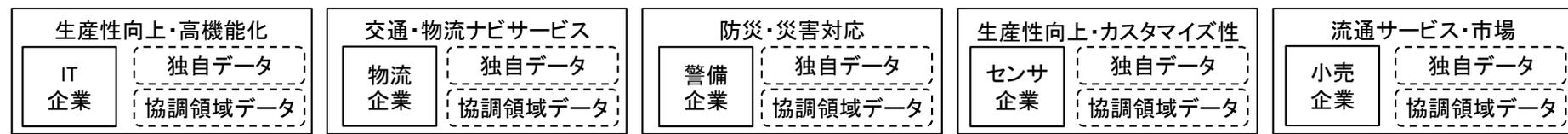
高度レスキュー



スマート工場



スマートシティ



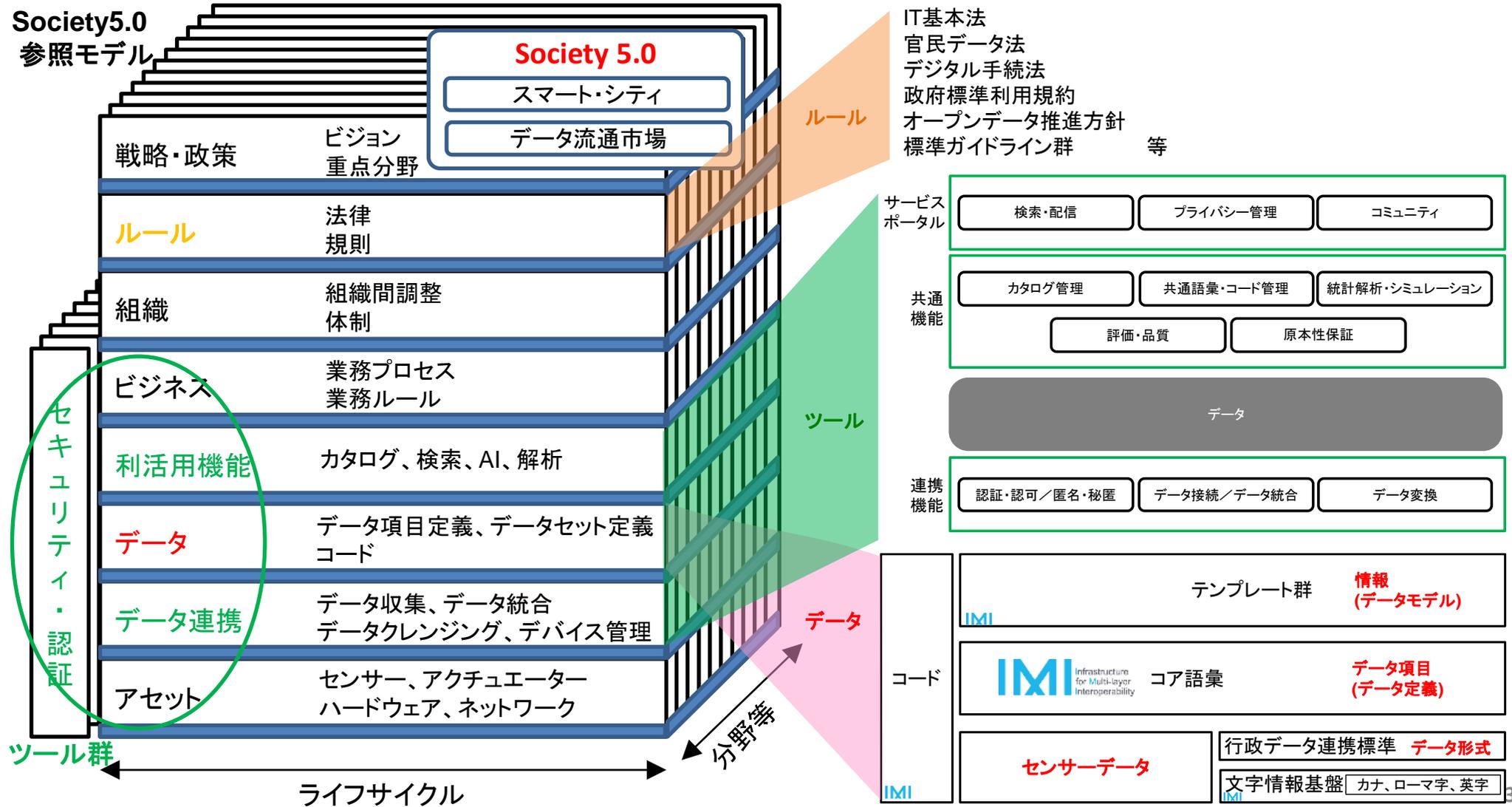
赤枠はCSTIが推進するものをIT室が支援。ピンクはIT室が主体的に推進。

「分野間データ連携基盤の整備に向けた方針」総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)重要課題専門調査会(第14回) <https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/14kai/siryō2-1.pdf>

データ標準 データ品質確保の仕組み

Society5.0 実現のためのアーキテクチャ

■ ルール、ツール、データを集中的に議論していく。



イメージ

- 行政機関は、価値あるデータを保有するプラットフォームになってきている。
- ワンスオンリー、ベース・レジストリ、オープンデータを一連のエコシステムで捉え、プラットフォームによってつないでいく。
- この価値観の中でルールの見直しを行っていく必要がある。



- ワンスオンリーで呼び出すデータはベースレジストリから供給される。
- ワンストップ及びワンスオンリーで使われるデータはデータ標準を使う。
- 税金で収集されたデータは基本的にオープンデータとする
- 目的外利用の禁止やオープンデータにしないデータは、個人や事業者の不利益になる情報に限定し、公益性を優先する。
(世界のイノベーションは、データの目的外利用により潜在価値を引き出すことで成功)

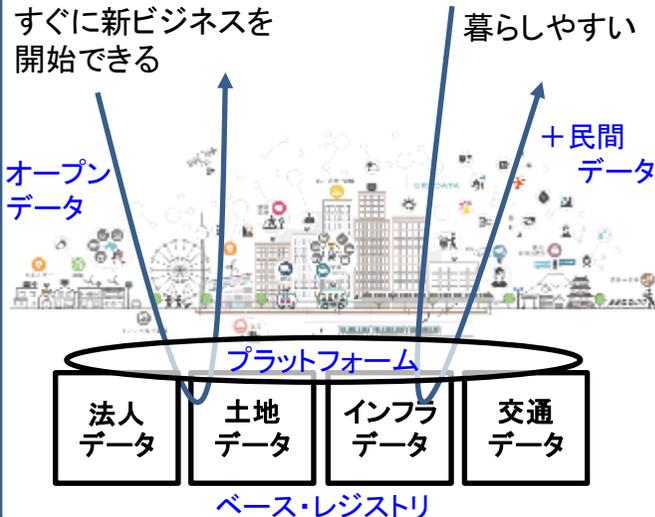
データ

■ データ・ドリブン・エコノミーと言われるように、データが全ての鍵になる。

- 手続きワンスオンリー化、経済効果、災害対策等の視点から優先順位をつけて取り組んでいく。

ベースレジストリ

「ベース・レジストリとは、**公的機関等で登録・公開**され、様々な場面で参照される、人、法人、土地、建物、資格等の社会の基本データ」であり、**正確性や最新性が確保された社会の基幹となるデータベース**。台帳等が相当する場合が多い。



データ品質

データ品質は、最新性や正確性等の**データそのものの品質**、安定的に供給できるかどうかの**ガバナンスの品質**がある。またデータの流の中で**改善のための品質評価**がある。

ISO25012による外形評価
利用者視点で外形的に評価
○○データ:最新性■ 正確性■ 網羅性■

ISO8000によるガバナンス評価
安定的に品質の良いデータが提供できるかの評価
△△データ:計画■ 体制■ レビュー■

ISO25024によるフローでの品質評価
データの流に目し、品質の課題箇所を明確化
☆☆データ:入力■ 蓄積■ 出力■

データ品質が高いと、クレンジングが不要となり、エラー処理も大幅に削減できる。

データ標準

データ連携を効率的に行うためには、**設計段階からデータの標準を意識**していくことが重要となる。また、**マスターコード等のコード標準**も重要である。データ定義、データ構造等のモデルが提供される。

共通語彙基盤(IMI)、行政データ連携標準、推奨データセット

- ・文字、住所、電話番号
- ・申請、証明、報告のデータ(策定中)
- ・施設や設備

スマートシティ
・都市データ(予定)

コード一覧

データ標準は参照モデルであり、データ連携時に使用する。各システムでの実装は工夫できる。

ルールとツール

■ データをスムーズに連携させるためにルールとツールの整備を行う。

➤ ルール

- データを交換する組織同士で、個人情報や利用に関するルールが異なるとデータ連携が難しくなる
 - データの共有について
 - » ワンスオンリーのために基本データは共有するのか
 - » 目的外利用禁止を遵守するのか
 - 資産としてのデータの扱い
 - » データはオープンにして社会価値を最大化させるのか
 - » データは販売し、自治体にとっての収益にするのか
 - 個人情報保護等
 - » 自治体毎にルールが異なる2000個問題をどうするのか

➤ ツール

- プラットフォームに付帯して、データ連携や活用を支援する各種ツールやツール情報を共有することで、重複投資をなくし、業務を迅速化できる。
 - オープンソースの活用
 - » オープンソースにより迅速な展開と継続的な成長を実現
 - データクレンジング等ツール
 - » 住所クレンジングや標準産業分類タグ推奨ツールなどの提供

今後の方向性と課題

■ 今後の方向性

- 方針整備と並行して、実装が可能な環境の整備
 - 2020年末迄にベースレジストリの工程を策定(骨太の方針)
 - データモデルの拡充
 - データ品質ガイドの策定と試行評価
 - データ人材モデルの検討

■ 今後の課題

- データのエコシステムを考えると、国、自治体、民間のデータが円滑に連携、活用できる仕組みが必要
 - 国と自治体のベースレジストリ整備の役割分担・責任分担
 - 集中型と分散型、キャッシュの有無
 - 更新方法
 - 連携、利活用ルール
 - 障壁となるルールの洗い出し